

# ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2024年11月3日(月)～10日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

11月4日(月)

今日の聖書日課：イザヤ 36:1～22

口先だけのことばが、戦略であり戦力だと言うのか。今、おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。

イザヤ 36:3

アッシリアの王センナケリブの家来ラブ・シャケのことば。ユダの王ヒゼキヤ王の家来エルヤキム、シェブナ、ヨアフがこれを聞いていました。信じない者にとってみことばは「口先だけのことば」。主に拠り頼む者はこのみことばによって奮い立ち、戦うのです。みことばこそ知恵と力。このラブ・シャケのことばから、逆に確信しましょう。暗闇の中で「あなたのみことばは、私の足のともしび 私の道の光です」と(詩篇 119:105)。まことの神に拠り頼みましょう。

11月5日(火)

今日の聖書日課：イザヤ 37:1～20

私たちの神、主よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、あなただけが主であることを知るでしょう。

イザヤ 37:20

ラブ・シャケのことばを聞いたエルヤキム、シェブナ、ヨアフは、これをヒゼキヤ王に告げました(36:22)。ヒゼキヤは衣を引き裂き、粗布をまとい主の宮に入って、家来たちを預言者イザヤのもとに遣わしました。イザヤは主のことばをヒゼキヤに語りました。主がアッシリアの王センナケリブを倒すと。ラブ・シャケはなおも主をそしります。これを聞いたヒゼキヤが主に祈ったその祈りが冒頭の聖句。ヒゼキヤは自分が救われることだけを願っているではありません。地のすべての王国が、主だけが神であることを知ること。それを願ったのです。その中にはセンナケリブも含まれています。あなたが苦しみから救われること。それは、神の栄光を証しすることなのです。

11月5日(水)

今日の聖書日課：イザヤ 37:21～38

主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で18万5千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きてみる

と、なんと、彼らは死体となっていた。

イザヤ 37 : 36

これがアッシリアに対する主のさばき。たった一人の主の使いが、アッシリアの 18 万 5 千人を打ち殺しました。これによってセンナケリブは陣をたたんで首都ニネベに引き返しました。どう思います？神はこのようにすることができるのです。今まで悩み、苦しんだことは何だったのか？！初めからそうしてくれたらいいのに。そう思います。神さまは私たちの信仰を求めておられるのです。ヒゼキヤ王のように主への信仰を告白しましょう。主イエスは言われます。「信じるなら神の栄光を見る」(ヨハネ 11 : 40)

11月6日(木)

今日の聖書日課：イザヤ 38 : 1~21

ヒゼキヤは顔を壁に向け、主に祈った。「ああ、主よ、どうか思い出してください。私が、真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」ヒゼキヤは大声で泣いた。

イザヤ 38 : 2~3

ヒゼキヤ王が病気にかかったとき、イザヤを通して主が語られました。「あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。治らない。」(1)。そのときヒゼキヤが主に祈ったことばが冒頭の聖句。こんな泣き言、と思いませんか？なんと主は彼の寿命にもう 15 年を加える、と言われました(5)。そのとおりになったことが大事なのではありません。ヒゼキヤと主との交わりの姿を見ましょう。泣いて祈る。神さまはあなたにも求めておられます。

11月8日(金)

今日の聖書日課：イザヤ 39 : 1~8

ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた主のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安定があるだろう、と思ったのである。

イザヤ 39 : 8

病気が快復したヒゼキヤを見舞ったバビロンの王メロダク・バルアダン。当時バビロンは小国でした。ヒゼキヤはこれを喜び、うれしさのあまりメロダク・バルアダンに自分の宝庫から武器庫に至るまでその中にあるすべてのものを見せました。自慢も入っていますが、バビロンと同盟を結ぶ意思も見ることができます。そんなヒゼキヤに主は、イザヤを通して、やがてバビロンがユダを支配し、ヒゼキヤの息子たちの中に、捕らえられバビロンの王に仕える者が出てくる、と言われました。それに対してヒゼキヤがイザヤに答えたことばが冒頭の聖句。

どこがありがたいのか？！神の民は自分が生きている間だけではなく、神の前に民がいつまでも主の栄光を現わし続けることを願うのです。

11月9日(土)

今日の聖書日課：イザヤ 40 : 1~8

慰めよ、慰めよ、わたしの民を。—あなたがたの神は仰せられる—

イザヤ 40 : 1

バビロン捕囚の向こう側を見据えた主のことば。不信仰によって倒れ、なおも不信仰の中にいる民に対して語られた神のことば。それでも「わたしの民」。そんな民に対して主は「慰めよ」と繰り返されるのです。救いが主のものであることを、100%神のあわれみによることがわかります。

11月10日(日) 今日の礼拝説教箇所：Iヨハネ 3 : 1~18「愛を分かち合おう」

本日は「世界食料デーを覚える礼拝」。神さまの愛を受け、分かち合ひましょう。